

# アフガンの現実

④

長谷部 貴俊

これまで日本国際ボランティアセンター（JVCC）は、ほかのNGOと協力しながら、日本の外務省、与野党に對して「軍事でない平和的なアプローチを望む」とした要望を何度も出しています。

インド洋での自衛隊による給油支援が安倍晋三首相（当時）の辞任の際、はじめて一般のアフガニスタン人に知られるようになりました。2001年当時、小泉純一郎首相（同）が、アフガニスタンのために自衛隊派遣したこと

は、実はアフガニスタンの人は知る由もないことだったのです。ちなみに08年、アフガニスタンの人々にそれを聞いて、「なんだ。日本もアメリカの仲間なのか」とがっかりした人が多いそうです。日本はア

フガニスタン支援を日米関係の強化の道具として利用していた側面があるかと思いますが、そこからの思考転換が必要で、まず何がアフガニスタンに必要かと。

## 平和的な支援こそ必要

### 法や行政整備 日本の役割大

日本では紛争地での支援というとすぐ自衛隊派遣ができませんかという議論になりがちですし、これまでアフガニスタンでも自衛隊派遣は何度も検討されてきました。そうではなく日本は信頼の高さを生かし、平和的なアプローチで復興支援に力を尽くすべきです。

日本に對して、インド洋での給油活動に對してがっかりしたという声が聞こえたのですが、それでも米軍、NATO軍と一緒に陸上で軍事行動をしているわけではないので、その点ではまだ信頼の高さがあります。

前にお話したPRT（地方復興チーム）と違い「日本の人道・復興支援は軍事、政治目的がないので、日本はい国だ」と枕ことばのように

「法の整備というのは大変重要で、JVCCの、あるアフ

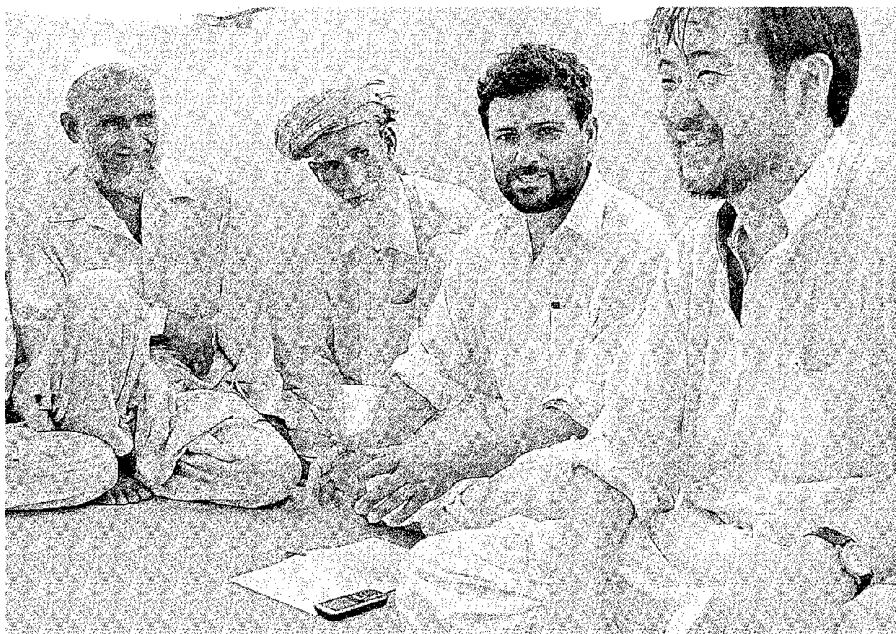
今でも多くのアフガニスタン人が言ってくれています。また小学校卒業できたかどうかという男性でも広島の原爆のことを知っています。「日露戦争でロシアに勝った、自分たちもソ連を追い出した。同じアジアの仲間だ」日本はアメリカに戦争で負けたが、戦後の復興は自分た

ちのお手本だ」とも言っていました。

一例ですが、法の整備、行政府の能力の強化で日本政府ができることもあるのではないのでしょうか。7月に東京で開催されたアフガニスタン復興支援国際会議では、アフガニスタン政府の行政能力の低下、汚職の問題が大きく取り上げられました。

法を整備というのは大変重要で、JVCCの、あるアフ

ガニスタン人スタッフは、最近までは「法律は紙だ。最後は撃って殺してしまえ」と思っていたと話していました。しかし言葉による交渉で米軍の民間人に対する軍事行動が止まる、PRTのほらまきが止まるという経験を積んで、今まで30年間、戦い



ナンガルハール県の保健委員会との会合に臨む筆者（右）。現地の人々の要望をくみとり支援活動に生かしている（JVCC提供）

は解決すると信じていたが、そうではなく言葉で解決することを学んだ」と言っています。カルザイ政権とタリバンをはじめとする反政府勢力との和平の模索はこれまでアフガニスタン議会、ヨーロッパのいくつかの政府内でもあがっていますし、タリバンがカタ

ールに事務所を開設する話も出てきています。今年、同志社大学が開催した国際会議にはタリバンをはじめアフガニスタンの反政府勢力も参加しました。アフガニスタン人の持つ日本へのいいイメージ、これまでの立場を考えると、日本が和解に果たせる役割は大きいはずで

現在、パキスタン側から反政府勢力が多く入ってきていますし、アフガニスタン政府に反感を持つ地域の有力者が、反政府側に新たに支援を始めたという話も聞きます。これまでの軍事によるアプローチはすでに限界だと思えます。かつてパキスタンはアフガニスタンにピース・シルガ（和平会議）を呼び掛けました。07年2月にはアフガニスタン、ヘルマンド県ムサカラで地域社会のためにピース・シルガが開かれました。このような動きに日本が積極的にイニシアチブを取るべきでないでしょうか。これまでの日本政府のイン

（日本国際ボランティアセンター事務局長）

〓おわり